

寄生虫食中毒第3弾！！トキソプラズマ症について

●寄生虫や原虫による食中毒とは

人糞を野菜の肥料にしていた時代は、回虫などの寄生虫による健康被害が多発していましたが、食中毒統計としては計上されていませんでした。

1999年に4月にいわゆる感染症予防法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）が制定され、赤痢などの伝染病とされていた病原微生物も食品媒介感染症として、飲食に起因する健康被害は食中毒として扱われることになりました。

さらに99年12月には、食中毒事件票、「食中毒統計作成要領」が改正され、原虫や寄生虫による飲食に起因する健康被害についても、食中毒として扱うことが明確化されました。

●トキソプラズマ症とは

トキソプラズマについては、5月上旬、NHKのニュースなどで取り上げられ、結婚や出産を控えた女性の間で関心が高まっています。

キソプラズマ症とは、トキソプラズマ原虫 *Toxoplasma gondii* という単細胞の寄生虫が起こす、人獣（畜）共通感染症（人にも動物にも感染する病気）です。人から人には感染しません。トキソプラズマはヒト・ブタ・ヒツジ・ヤギ・ネズミ・ニワトリなど、哺乳類や鳥類に寄生し、終宿主（体内でトキソプラズマが増殖する）はネコ科の動物です。ネコ科以外の動物は中間宿主（幼生期に寄生するもの）といい、ヒトも中間宿主となります。人から人への感染はありません。

●流行状況

トキソプラズマ症は世界中で見られ、特に熱帯から亜熱帯地域では高率に発生しています。感染したネコ科の糞には、オーシスト（原虫の卵）が含まれていますが、排出しているネコは全世界で1%と推定されています。3%から70%の人は一度感染してトキソプラズマ抗体が陽性になっています。フランスでは80%近く、アメリカでも6000万人以上が感染との報告もあります。

日本では豚肉による感染が多くありましたが、豚の飼育環境が清浄化され、豚の陽性率もきわめて低くなっています。1990年代の統計ではネコの抗体陽性率も6~16%程度でした。

＜食中毒の集団発生事例＞

1997年に韓国でイノシシやブタの生レバーや脾臓を食べた8人がトキソプラズマ症を発症しました。また1995年にカナダで水道水を介した集団発生が起きています。山ネコの糞便汚染が原因と考えられ37名の妊婦と12名の新生児を含む112名の感染がありました。

●どのように感染するのか

環境中からのトキソプラズマへの感染方法はふたつあります。中間宿主であるブタ・ウシ・ヒツジ・ニワトリなどの生肉などに含まれるトキソプラズマのシスト（原虫）を食べて感染する方法と、ネコの糞に含まれるオーシストで汚染された食品や水などを介して、または、土中等に残っていたオーシストから手指等を介して感染する方法です。

ただし、大部分の人は感染しても、症状が現れないか、症状があってもかぜのような軽い症状で免疫を獲得します。

これとは別に、妊娠中、または、妊娠直前に初感染した場合に、胎盤を通して、胎児にトキソプラズマが感染する、胎内感染による先天性トキソプラズマ症があります。

なぜ今、トキソプラズマ症なのか

＜抗体陽性率が低下と、生食の増加により出産前に初感染する危険性が増した？＞

女性でも妊娠6か月以上前の感染であれば、胎児への影響はありませんが、妊娠の数か月前あるいは妊娠中に初めて感染すると胎児に先天性トキソプラズマ症が発生する場合があります。

トキソプラズマの感染源として、ガーデニングが注目されるのは、土いじりをする人が増加し、土からトキソプラズマに感染する機会が多くなったことによります。

●先天性トキソプラズマ症の症状

流産、脳症、痙攣、水頭症、頭蓋内石灰化、黄疸、肝臓や脾臓の腫れ等があります。

トキソプラズマに感染すると、流産や死産になる率が約2割、水頭症や精神・運動機能の障害は1割程度、残りの約7割は出生時には無症状、とくに妊娠後期に感染した場合には9割以上の子で出生時に異常が無いようです。

●検診、予防方法

免疫の働きが弱まっている人、妊娠している人、あるいは妊娠しようとしている人では、トキソプラズマ症を防ぐためにしっかりと対策する必要があります。

妊娠を考えているひとは、トキソプラズマの血液検査を受けるのが望ましい。トキソプラズマが陽性であれば、胎児が感染して先天性トキソプラズマ症を起こす心配はありません。陰性であれば、トキソプラズマに感染するのを防ぐためにしっかりした注意をします。

レバーや刺身だけでなく、加熱が不十分なレア状態の肉類、生ハムやサラミも含まれる可能性があるので、妊婦は肉類を食べる場合は、十分加熱した物を食べるようにします。オーシストは乾燥や殺菌剤に強いが、加熱によって死滅します。生野菜は丁寧に洗ってから食べます。肉に使った調理器具は使ったらすぐに洗います。包丁やまな板は肉用とか生野菜用に使い分けます。

まれに、生肉の調理中に手指の傷口から感染することがあるので、できるだけ生肉に触れないか、触れる際は衛生手袋を使用します。

土壌にトキソプラズマのオーシスト（原虫の卵）がある可能性があるため、ガーデニングや土に触れる際は、手袋を着用し、作業後は手洗いを徹底します。

●猫の扱い

妊娠したからといって、飼っている猫を手放す必要はありません。重症な例は、全国で年間5例ほどといわれていますが、ほとんどが生や加熱不十分な肉を食べたことによります。これから妊娠しようとしている人や妊娠中の方は、トキソプラズマについての理解をしておくことが重要です。

猫の糞にオーシストが排泄されるのは、猫の感染初期です。従って、飼い猫は、完全室内飼いし、糞を扱うときは手袋をして、トキソプラズマに初感染しないようにします。

妊娠中に外猫を飼う場合、最初の1ヶ月だけ誰かに預かってもらい、それから自宅に迎え入れるようにすれば安心です。